

4項 さまざまな生協

福祉の専門生協 ー市民参加型で組合員どうしのたすけあい

児玉 英憲

福祉クラブ生活協同組合 専務理事



1. 福祉クラブ生協設立の趣旨

福祉クラブ生協は1989年、未だ国の介護保険制度が始まる前に、21世紀初頭に訪れる高齢社会を見据え「福祉専門生協」として設立しました。公的サービス（国）任せではなく、シルバーサービス（企業）に委ねるのでもなく、市民参加型で組合員どうしのたすけあいとして三つ目の選択肢をつくることを目的に設立した生協です。

福祉クラブ生協設立から32年、現在もその想いは変わることはありません。少子高齢社会、公的な福祉サービスの限界、地域コミュニティの崩壊等から発生するさまざまな課題を他人（ひと）任せにせずに、「たすけあいは順番」・「困ったときはお互いさま」として、組合員自らが必要なサービスやしくみを参加型で創っています。

2. 2020年度概況（2021年3月末）

（1）組合員、ワーカーズ・コレクティブ（W.Co）、役職員数

組合員数	W. Co メンバー数	常勤役職員数
17,070 世帯	3,432 名（団体間兼務含む）	44 名

（2）事業高内訳

（万円）

総事業高	供給高	福祉事業高	施設事業高	利用事業高	共済受託
438,908	292,446	91,489	48,616	4,971	1,387

- ・供給（消費財の共同購入による個配事業）、福祉（家事介護・食事・移動・子育て支援等）
- ・施設（入居施設・デイサービス・等）、利用（エアコン清掃・庭木手入・出張理美容等）

3. 共同購入が担うたすけあい

福祉クラブ生協が行う共同購入は組合員自らが配達を担い同じ地域に住む組合員宅へ届けることを基本としています。配達時同じ地域に住む組合員が週に1度組合員宅を訪問し、組合員の生活に向き合いながら必要な福祉サービスの情報を届けます。福祉クラブ生協は

高齢の組合員が多い生協です。共同購入の配達時にも必要な方へは「お元気ですか」と声かけを行い、OCR の代筆や自宅の中の冷蔵庫、冷凍庫まで運ぶことも行っています。30 年前、福祉クラブ生協の設立当初から配送形態は個配に拘りました。組合員 1,000 名からスタートした効率の悪い配送方法ですが、それは必要な人へ必要な情報を届け、必要なニーズに応えるという配送システムそのものを福祉と位置づけているためです。

コロナ禍、移動や外出の自粛が余儀なくされる社会状況です。同じ地域に住む組合員どうしの配達では話も弾みます。巣ごもり生活でコミュニケーション不足から予測されるフレイルの予防にもつながるものと考えます。

配送コース形成状況

配送形態	配送内容	構成比
ポイント	職員が組合員宅へ配達し組合員が仕分けし近隣の組合員宅へ配達	41%
宅配	宅配センターから組合員が組合員宅へ配達	42%
職員個配	職員が直接組合員宅へ配達	17%

4. ワークス・コレクティブによる市民参加型福祉の実践

福祉クラブ生協の運動を支える事業はワークス・コレクティブ（以下 W. Co）が担っています。市民参加型でつくるお互いさまから始まった「たすけあい」は、生活支援全般を担う家事介護 W.Co と共同購入の配達を担う世話焼き W.Co の 2 つの業種（サービス）が中心となり組合員や市民の望むニーズから、地域に必要なさまざまなサービスを生み出してきました。

福祉クラブ生協の W. Co メンバーは福祉クラブ生協の組合員であり、同じ自治体・行政区の組合員へサービス提供を行うことが基本となります。これは同じ地域に住む組合員どうしによる「たすけあい」を実践していることを表し、人任せにせず地域の課題は参加型で解決を図るという設立の想いにつながります。福祉クラブ生協では W. Co は組合員の暮らしを支える活動の運営主体であり、その活動こそ人と人との互助を基礎とした市民参加型福祉の在り様を体現していると考えています。

2021 年年 3 月末 W.Co は、19 業種 123 団体、W. Co メンバーは 3,432 名

●世話焼き W.Co ●家事介護 W.Co ●食事サービス W.Co ●移動サービス W.Co ●デイサービス W.Co ●子育て支援 W.Co ●生活支援 W.Co ●小規模多機能サービス W.Co
●うぇるびーサロン W.Co ●居宅介護支援 W.Co ●ライフサポート W.Co ●成年後見サポート W.Co ●街の技術 W.Co ●LPA W.Co ●講座 W.Co ●センター業務 W.Co ●申込制作 W.Co ●センター配送 W.Co ●本部事務 W.Co

5. 「組合員どうしのたすけあい」その先に

福祉クラブ生協設立から 30 数年のこの間の活動から組合員、W. Co とともに広がりつつあります。そして最近では医療分野（団体等）との連携推進から健康に老いるための健康づくり活動や、さまざまな形態の居場所づくり、ワンコインで 20 分程度の生活支援を行うちょこっとサポート、他法人施設へ食事や消費材を届ける法人団体契約のように地域で共生するさまざまな団体や個人と連携した街づくり活動づくりに取り組んでいます。

未来には 2040 年問題という高い障壁も見えています。生産年齢人口の減少から市民運動においても人の参加度合や時間の拠出割合を高めることは、より難しくなることが課題となると思われます。過去も現在も未来も福祉クラブ生協における最重要テーマは市民参加型福祉の更なる推進であると考えています。優先課題は、やはり多様な層の人の W. Co への参加促進と組合員として参加する賛同者の拡大です。そしてそのうえで、これからは組合員どうしのたすけあいの発展として、福祉クラブ生協の輪の外の団体や市民の街づくり活動への参加も広げることが必要となると考えています。多様な団体や人とつながる仕組みづくりを進めながら、地域でともにたすけあい活動を広げること、その必要性を大勢の意思ある市民と共有化していくことを目指します。